🕮 図書館だより Yぶらりー 🕮 横浜商業高等学校 2024年度 第6号

青い空に黄色いミモザの花が映える朗らかな春がやってきました。図書館で本棚を眺めていても、黄色い表紙の本はパッと目を引きます。特にマーケティング関連の本があるコーナーには、背表紙が黄色い本が多くあります。『カイタイ新書』博報堂ヒット習慣メーカーズ著（675 ナ）は、買いたくなる気持ちの仕組みをつくるための指南書です。これからのマーケティングは、一度でなく何度も買いたくなるような習慣をつくることだとして、習慣化するためのあらゆる手法が書かれており、マーケティングの極意がわかった気になります。　　司　書

🕮　Y校トレーニングルームが表紙を飾る雑誌！　🕮



Y校のトレーナーさん方が書かれた論文が、**『Strength & Conditioning Journal JAPAN』**特定非営利活動法人 NSCA ジャパン発行の 2025 年 3 月号に掲載されています。

「高校におけるストレングス＆コンディショニングを通じたインテリジェントアスリートの育成」というタイトルの、9 ページにわたる巻頭特集です。自分で行動を考えて成長できる力をもったインテリジェントアスリートを育成するために、トレーニングの指導に取り組んでいることがわかります。Y校図書館に所蔵がありますが、J-STAGE の論文サイトからの閲覧も可能ですので、ぜひご覧ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/scjj/32/2/32_5/_article/-char/ja

山口裕士トレーナーからのメッセージをこちらに掲載します。

横浜商業高校ストレングスコーチの山口です。私たちがこの記事を執筆することができたのも、部活動の顧問の先生方や、スポーツ科学の授業を共に進めてくださっている保健体育科の先生方をはじめ、多くの先生方のご協力のおかげです。さらに、一生懸命トレーニングやスポーツ科学の学習に励んでくれている選手・マネージャーや生徒の皆さんの日頃のハードワークがあったからこそ、この記事を形にすることができました。もし、体力測定の結果が向上しなければ、企画自体が没になっていたかもしれず、内心ハラハラしていました……。本当にありがとうございました。

記事のタイトルにもなっている「インテリジェントアスリート」とは、コーチから自立して、自ら最適な行動を選択・実行できるアスリートのことです。高校生アスリートでいられるのは、人生の間で長くても 2 年半ほどの期間しかありません。そんな貴重な日々を他人に委ねるのではなく、自分の意志と知識とスキルで、最高の時間にしてほしいという想いから、僕は「インテリジェントアスリートの育成」というテーマを持つようになりました。そのために必要な知識やスキル、考え方を身に着けるために先生やコーチ・トレーナーのことを全力で頼ってほしいと思います。Y校にはそのための最高の環境と伝統があると思います。最後になりますが、インテリジェントアスリートとは、単に「頭が良いアスリート」のことを指すのではありません。最後は気合いと根性です。Y校生らしい気合いと根性にインテリジェントな視点を掛け合わせて、これからも「高校生インテリジェントアスリート界隈」をぶち上げていきましょう！

🕮　2025年 本屋大賞 ノミネート作品 🕮

今年も本屋大賞のノミネート作品が出揃いました。図書館のカウンターに紹介ポスターと本を並べていたら「近くの図書館で借りようと思ったら１０５０人待ちだったのにここにある！」と喜んで借りていった生徒がいました。本屋さんで買おうか悩んでいたけどここにあった！という生徒も。高校の図書館は穴場です。どんどんご活用ください。今年の大賞発表の４月９日までに、片っ端から読んで大賞作品をあててください。貸し出し中の場合は予約ができます。
こちらに司書が読んだ６冊を紹介します。

〇早見和真『アルプス席の母』（913.6 ハ）
夏前の図書館だよりＹぶらりーの「今月のおすすめ本」で、いちど紹介した、野球に打ち込む息子以上に奮闘する母親のお話です。野球に限らず、頑張る子どもを応援したい親であれば、誰もがグッときてしまうはず。高校生目線から見ても、応援してくれている親の本心を垣間見ることができて、今までとは違う気持ちで部活にも親にも向き合えるかもしれません。

〇阿部暁子『カフネ』（913.6 ア）
カフネ、という聞き慣れない名前は、この本に出てくる家政婦サービス会社の社名で、「ポルトガル語で『愛する人の髪にそっと指を通す仕草』を表す」とありました。溺愛していた弟を亡くし、不妊治療の甲斐はなく、職場では孤立し、夫からも離婚を申し出られてアルコールに走っていた主人公が立ち直ったのは、人のために動いたこと、でした。まさに情けは人の為ならず。人を助けたり親切にしたりした行いは、いつか巡り巡って自分のもとにかえってきて、それが結局自分を助けることになると、ひしと感じました。

〇一穂ミチ『恋とか愛とかやさしさなら』（913.6 イ）
まさかと思うけれど実は誰にでもあり得そうな話でした。プロポーズの翌日に彼氏が盗撮で捕まってしまったことが話の中核で、主人公の揺れ動く心の機微が伝わり、苦しくなるほどの言葉で表されています。彼氏の名前がちょっと珍しいのですが、Ｙ校の先生にも同じ名前の方がおり（漢字が違いますが)、あまりにもキャラが違うのでかぶらずに読めてほっとしました。

〇野崎まど『小説』（913.6 ノ）
小説を読む、という行為がこの小説の中で大きくなって、宇宙と繋がったり、若干ファンタジーめいたり、淡々とした文体にどんな展開が、と思いきや、読み進めるにつれて哲学的なものを感じさせるような終盤が待ち受けます。小説に「小説」というタイトルを付けるなどという大胆さに、最初はよくまぁそんなことを、と思ったものの、読み終えたらこのタイトル以外に考えらません。

〇恩田陸『Spring』（913.6 オ）
恩田陸ワールドの、今回はバレエ編、という作品です。2017年の本屋大賞を受賞した『蜜蜂と遠雷』はピアノを弾く人のお話で、読みながら「音楽を表現することばってこんなにあったんだ」と驚きましたが、今回も読みながら「踊るということを表現する語彙がこんなにあったとは」と何度も感心させられました。ページの下がパラパラ漫画になっていて、それを見ているだけでも楽しい気分になれます。

〇宮島未奈『成瀬は信じた道をいく』（913.6 ミ）
昨年度の本屋大賞受賞作『成瀬は天下を取りに行く』の続編的な作品です。私はこの一作目の後半にちょっと納得いかない部分があったのですが、この続編でスッキリしました。両方読んで、スッキリしてもらいたい。主人公の成瀬はＹ校には絶対にいないタイプの高校生ですが、どこかにこんな子がいたらずっと観察していたいかも、と思える魅力的な女の子です。

🕮　今月のおすすめ本　🕮

○　『小学館の図鑑 NEO アート　はじめての国宝』（709 ア大型本）

小学生でも読みやすい総ルビ付きの図鑑は、ある先生から「千手観音の外された千本の手が全部載ってるよ」と聞き、俄然興味が湧いて導入しました。日本が誇る国宝への視点を変えるだけで、こんなにも違う世界が見えるのかという驚きが、ページをめくるごとに繰り広げられます。

表現の違いを探る章の中の「風を感じてみよう」というページには、運慶らの「金剛力士立像」や、葛飾北斎の「富嶽三十六景」の、衣服や草木の揺れる様子から感じる風についての解説がありました。金剛力士像から風を感じるという見方をしたことがなかったので、図鑑を楽しみながら世界がもっと広がることを教えてもらえて、とても得をした気分になりました。

こちらもおすすめ！進路を就職に定めた皆さんの役に立ちそうな本が揃いました。

○　『高校生用 SPI クリア問題集』（307 タ参考書）

○　『高卒程度公務員完全攻略問題集』（317 ア参考書）

○　『公務員試験職務基礎力試験 BEST 早わかり問題集』（317 シ参考書）

○　『高校生よく出る一般常識問題集』（307 セ参考書）

○　『高校生の就職試験一般常識問題集』（307 セ参考書）

○　『高校生の就職試験適性検査問題集』（307 セ参考書）

○　『高校生就職面接の受け方答え方』（307 セ参考書）

○　『内定者はこう選んだ！業界選び・仕事選び自己分析自己 PR 完全版』（377 サ参考書）

入学時点で定めていた目標に向かって図書館で毎日のように勉強に励み、部活動も頑張り、確実に夢をかなえた生徒が晴れやかな顔で報告に来る姿を見るのは、Y 校にいて嬉しく思うことのひとつです。

横浜市役所や国土交通省、横浜消防局や JR 東海、横浜銀行など、難関を勝ち抜けて就職する生徒たちがコツコツと取り組んでいたテキストの、最新版が出揃いました。

村上春樹の『ノルウェイの森（下）』（913.6 ム文庫）という小説に、大学生の主人公がガールフレンドに「ねえワタナベ君、英語の仮定法現在と仮定法過去の違いをきちんと説明できる？～そういうのが日常生活の中で何かの役に立ってる？」と聞かれ、「具体的に何かの役に立つというよりは、そういうのは物事をより系統的に捉えるための訓練になるんだと僕は思ってるけれど」と答える場面があります。いま、毎日勉強していることが直接何かの役に立たなくても、みんなの脳みその中に物事を系統的に捉えるためのちからが確実に積み重ねられているということを、卒業してゆく生徒たちの表情を見て実感しました。

4月12日(土) 13日(日) 10時～16時　茅ケ崎市の茅ケ崎中央公園(第一カッターきいろ公園)にて行われる 第3回茅ケ崎クラフトフェア「いちの市」に、前号でお伝えしたアフリカ布を使ったハギレプロジェクトのY校生が、またもや出店することになりました。 スワヒリ語でハギレをあらわす「Chacavu(チャカブ)」という名前のお店で、若手チャレンジブースにて販売します。春の茅ケ崎へ、お散歩がてら、どうぞ足を運んでください！

Home｜湘南茅ヶ崎クラフトフェア いちの市







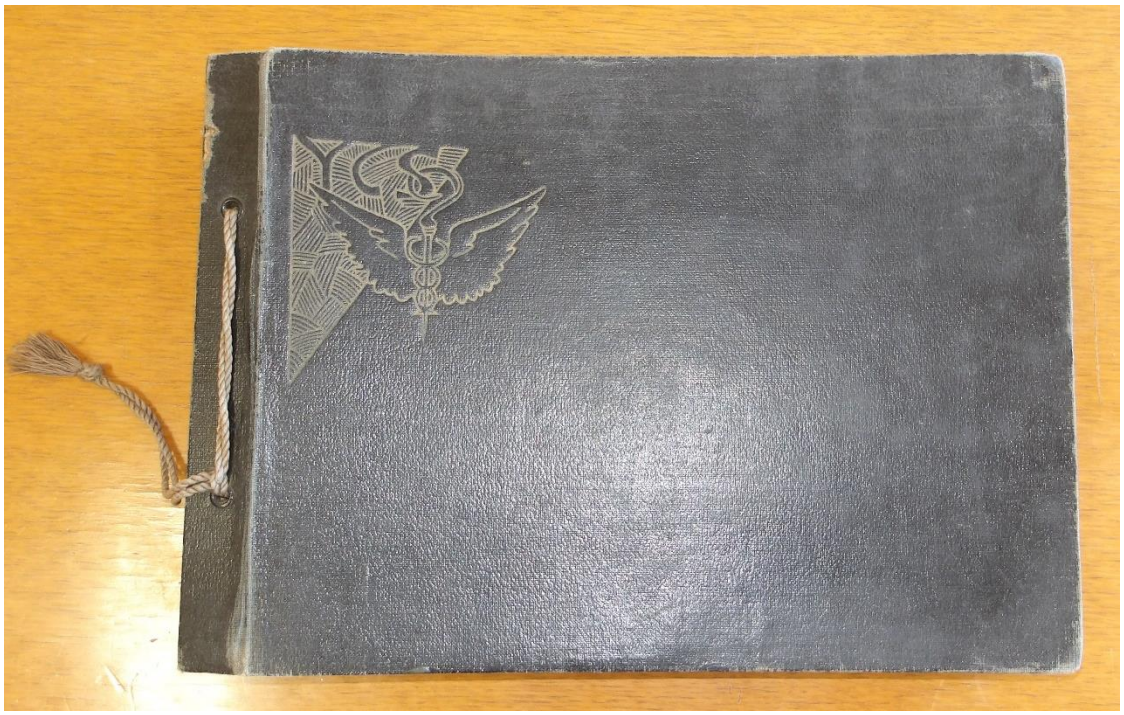
Y校アーカイブ　vol. ２９　「 Y専 第１回卒業アルバム 」

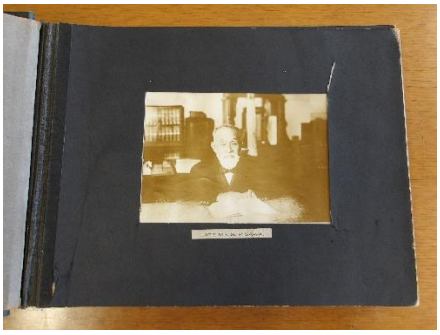
横浜市立大学のルーツはY校にあって、昭和3年に設立された「横浜市立横浜商業専門学校」（通称・Y専）でありますが、設立年度の前年である昭和2年3月19日の日付が付いたY専の卒業アルバムが存在します。

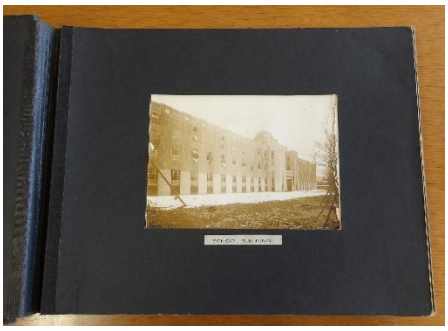
表紙の裏に「昭和二年三月十九日　専修科第一回卒業者　○○○○（寄贈者個人名）外十二名ヨリ寄贈　昭和二年四月十一日受領ス」と記載されています。

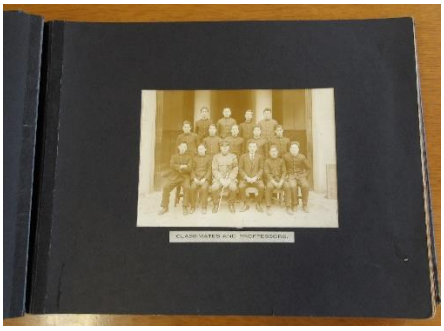
大きさは縦23．8cm、横33．8cmの横長で、4．3cmの厚みがあり、紐で綴られています。

表紙をめくった1枚目には大正14年に亡くなられたY校初代校長の美澤進先生の写真があります。ほかに校舎の写真や集合写真、授業の様子などで構成された前半の写真は11．4cm×15．2cmの大きさです。厚紙に貼られた写真に、黒い紙の枠がついています。後半は8．2cm×6cmの縦長の小さめの写真におさまった先生方の写真が18名分、10．3cm×7．4cmの少し大きめの個人写真の14名は全員卒業生のようです。昭和9年に発行された「Y校同窓會會員名簿」の昭和2年のページに（専修科　總員十四名内物故者一名、商業學校總員五十七名内物故者八名）とあり、この「専修科」に記載されている名前と、アルバム写真の名前とが一致します。









コメントはすべて英語で書かれています